

セイヨウオオマルハナバチの取扱いについて（案）

セイヨウオオマルハナバチ小グループ

本小グループでは、セイヨウオオマルハナバチに係る定着実績、在来マルハナバチ類への影響、在来植物への影響、現場での利用実態と逸出防止措置の実施状況・効果等について7回の会合を重ねて議論を行ってきた。以下、小グループとしての検討結果を報告する。

- セイヨウオオマルハナバチが生態系等へ与える影響については、次のとおり捉えることが適当である。
 - ✓ 定着の可能性については、北海道で継続的に自然巣が発見され周年の活動が確認されていることから定着の事実が明らかとなった。特に、毎年、継続的に大量な利用がなされていることから、大量に野外に逸出する状況が継続しており、その影響は大きいことが明らかになっている。
 - ✓ 在来マルハナバチ類への影響として、特に在来種のエゾオオマルハナバチの明確な減少が確認されており、その原因として営巣場所、及び餌資源をめぐる競争が考えられた。このうち、営巣場所をめぐる競争については、実験室内で在来種の巣の乗っ取りに加えて、野外における営巣場所であるネズミの古巣をめぐるセイヨウオオマルハナバチ同士の競合が激しいことが明らかとなった。餌資源を巡る競合については、活動地域の餌資源量と、セイヨウオオマルハナバチ及び在来のマルハナバチ類の生息密度との相関は不明確である。
 - ✓ 生殖攪乱については、在来種と共通の誘引・忌避物質を含み、実験室では在来種との交尾が確認されているが、野外での交尾の実態は不明確である。
 - ✓ 寄生生物については、セイヨウオオマルハナバチから感染した外国産マルハナバチポリプダニの感染拡大が確認されている。我が国のマルハナバチ類への具体的影響は不明だが、海外でマルハナバチ類に対する悪影響が報告されている。
 - ✓ 在来植物への影響については、野外において複数の植物種への盗蜜行動が確認され、特にそのうちの1種（エゾエンゴサク）については、受粉にほとんど貢献せず、結果率を低下させている事例が明らかになった。
- 現場での利用状況及び逸出防止措置の実施状況とその効果については、次のような状況である。
 - ✓ 全国で年間約7万コロニーが流通されている。セイヨウオオマルハナバチの利用により、減農薬、省力化、高品質・高付加価値化等、生産面での効果が発揮されている。
 - ✓ ネット展張については、適切な方法をとることにより効果的にセイヨウオオマルハナバチの逸出防止を図ることができることが示された。
 - ✓ 野外へのハチの逸出を防ぐためのネット展張の普及が進みつつあることが明らかになった。また、使用済み巣箱の簡便な処理の方法として、ビニール袋を用いた方法及び熱湯を用いた処理方法が示された。

- 毎年、継続的に大量のコロニーが利用されていることを考えると、そのまま野外への逸出が続けば在来マルハナバチ類及び植物群落への影響が増大し、我が国の生態系に対し、重大な被害を及ぼすおそれが高いといえる。また、逸出防止の高い効果が期待できるネット展張及び使用済み巣箱の適正な処理を確実に実施することが極めて重要である。
- 以上を鑑み、当小グループとしては、セイヨウオオマルハナバチの取扱いについて、以下のとおりとすることを提案する。
 - ✓ セイヨウオオマルハナバチを特定外来生物に指定すること。
 - ✓ 使用する場合には、逸出防止措置としてのネット展張及び使用済み巣箱の適正な処理がはかれることが不可欠である。
 - ✓ 野外のセイヨウオオマルハナバチ等の状況に関する調査を継続し、必要な防除手法の検討を行う。